

実践記録：中学校体育科におけるオリンピック教育の試み

吉中 孝志*・海野 勇三

The Olympic Games as a Topic in Junior Highschool PE Class

YOSHINAKA Takashi*, UNNO Yuzo

(Receive January 15, 2009)

キーワード：オリンピック・スポーツ観・体育理論

はじめに

2008年8月、北京オリンピックが多くの問題を抱えながらも、盛大の内に幕を閉じた。近代オリンピック（以下オリンピック）は、平和と復興の祭典として1896年（アテネ）から世界大戦による中断をはさみながら、現代まで4年に一度開催されている。オリンピックは、多くの感動的なドラマを生み出す一方で、ボイコットなどの国際的な問題や加熱する商業主義、ドーピングの問題などさまざまな課題を抱えている。

一方教育界においては、今年度新しい学習指導要領が示された。中学校においては、これから2014年度完全実施に向けた準備が各校で行われる。この学習指導要領では、「生きる力の育成」という基本理念はこれまでとは変わっていないものの、各教科で大きな改革の必要性が示されている。保健体育科では、現行学習指導要領のもとでの授業実践から挙げられたさまざまな課題から、学習内容の明確化や各運動領域の必修化など、具体的な多くの改訂の方策が示されている。

その一つに「体育理論」の位置づけがある。今回の改訂で「体育に関する知識」は「体育理論」という名称に変更された。これは、体育における知識を重視するとともに、各運動領域で身に付けさせる知識と明らかに区別するという考えに基づくものである。よって、その学習内容も学年毎に明確になった。とりわけ第3学年には、オリンピックを始めとする国際的なスポーツがもたらす役割が語られている。つまりスポーツを一つの文化として捉えていくことの必要性が唱われているのである。

そこで、オリンピックを学習素材に使い、これからの体育学習にどのように生かせるか。とりわけ、保健体育科における「体育理論」のこれからの在り方を意識しながらの実践を試みたい。なお、現行学習指導要領ではオリンピック学習を教科の中で単独に取り込むことは難しい。そこで、本校が教科横断的な学習の研究を進めている利点を生かし、以下の二

写真1（授業の様子）



*山口大学教育学部附属光中学校

つの授業を計画し、その実践を通しての成果と課題を考察する。

- (1) 体育科と道徳の横断的な授業
- (2) 体育科と社会科の教科横断的な授業

1. オリンピックを学習素材として取り扱うことの教材的価値

1-1 オリンピックを学ぶ

オリンピックの何を学ばせていくのかは非常に重要である。「オリンピックについては、スポーツの意義や倫理的な価値、国際親善や世界平和に果たす役割など、文化としてのスポーツの意義を理解する上で、実に多くの要素が含まれている。」¹⁾ そこで、さまざまな文献を参考にし、生徒に身に付けさせたいオリンピックに関する学習内容を下表のように整理した。

表-1 オリンピックに関する学習内容

オリンピックの目的及びその諸問題		<ul style="list-style-type: none"> ●近代オリンピックは、ピエール・ド・クーベルタン男爵（仏）の提案により、1896年、古代オリンピックの故郷であるギリシャで第1回大会が開催され、現代まで4年に1回行われていること ●クーベルタンの提唱したその理念は「オリンピズム」と呼ばれ、「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍などさまざまな差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」ことを目指したものであること ●現在オリンピックは、各国の政治や経済などにも利用されたり、勝利至上主義に関わってドーピングを利用したりするなど、多くの課題を抱えていること
A	正義 フェアプレー	<p>「順位やメダルよりも、フェアプレーを貫くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで、勝敗よりもフェアプレーを貫いた事例が多くあり、賞賛報道が多くなされていること ○競技力向上のために、国や協会から多くの経済的援助を受けていること
B	身体	<p>「ドーピングを行ってまで勝利にこだわること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勝利至上、競技力向上を目的として薬物が利用されてきたこと ○オリンピックの理念や競技者の健康面からドーピングは禁止され、厳しく取り締まれていること
C	環境	<p>「オリンピックを行うために、競技場や選手連施設の設置や道路の整備などのために、環境を破壊したり、人々の生活を脅かしたりすること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北京オリンピックは、「緑色五輪（グリーンゲーム）」と呼ばれ、国家を上げて環境問題に取り組んでいること ○人的環境の整備として、一般市民のマナー向上が問題となっており、国レベルで改善が図られていること ○一方、犬の大量虐殺や強制移転させられた人などの問題が起こっていること
D	政治	<p>「政治とは無関係のはずのオリンピックが国家の都合で中止になること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで、政治的な関係（戦争）で3回のオリンピックが中止になっていること（第6回ベルリン大会 1916年、第12回ヘルシンキ大会 1940年、第13回ロンドン大会 1944年） ○モスクワ大会 1980年では、ソビエト軍のアフガニスタン侵攻に対する制裁措置として、米国をはじめ西側諸国が出場をボイコットしたこと、日本も多くの選手やコーチが参加の意向を唱えたが、最終的に出場を辞退したこと
E	経済	<p>「オリンピックが競技者よりも観客を優先しショービジネス化されること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまでのオリンピックでは、米国のプライムタイム（テレビの視聴率が最も高い時間帯）に合わせて競技スケジュールが決められていたこと ○選手自身も「商品化」され、テレビ映りのために美しさが強要されたり、私生活までも映像の対象になったりすること
F	人権	<p>「オリンピック競技において、男女で参加できる種目が異なること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オリンピックは元々女人禁制で大会に参加することが許されなかったこと ○男女の問題だけでなく、人種による問題も指摘されていること（その名残が、現在の水泳やテニスなどに反映されていること）

*●今回の実践で学習させる内容

1-2 オリンピックで学ぶ

上述したようなオリンピックをめぐる内容を学習することを通して、以下の二点をねらう。

① 情報を批判的に見る目を養う。(メディア・リテラシーの育成)

オリンピックでは、さまざまなテーマの報道が取り扱われてくる。しかし、これらの報道は、必ずしも真実を語るものとは限らない。むしろ、一部の立場の人にとって都合よく扱われている場合もある。これらの報道を別の側面から観ることで、オリンピックが抱える諸問題を浮き彫りにしたり、新たなオリンピックの価値を見出したりすることができる。このように、情報を自分たちで吟味していく力がこれから求められるのであり、いわゆるメディアリテラシーを育むことをねらいとしている。

② これまで身に付けた各教科等の学びのスタイルを活用させ、幅広い学びを実現する。

オリンピックは、単にスポーツの祭典というだけでなく、政治や経済、環境などさまざまな課題を含んだ社会の縮図である。したがって、生徒がその諸課題を省察しようとするとき、幅広い学びを活用する必要にせまられる。そこで、これまでの学習で身に付けてきた各教科等の学びのスタイルを活用させることで、教科等の枠を越えた探究的な課題に向かう学びを組織する。

2. 授業実践記録

2-1 体育科と道徳との関連をねらった授業実践

① 教材名 「スポーツと男女平等」～北京五輪をめざす女子ボクサーの物語～

② 授業の展開構想

本実践は、北京オリンピック出場をめざす女子ボクサーの心情をよみとる活動を通して、スポーツにおける競技性と平等性の関係を理解するとともに、男女平等の社会をつくる上で異性を理解することの重要性について感じ取ることを行なった。(表-2参照)

まず導入として、オリンピックの創始者であるクーベルタンの言葉、「オリンピックは参加することに意義がある」を提示し、近代オリンピックが生まれた歴史背景とオリンピックの理念を理解させる。次に、北京オリンピックをめざす日本の女子ボクサーの生活の一部を紹介した映像を流し、出場を目指して努力する選手がいるにも関わらず、北京オリンピックでは女子ボクシングの種目開催が認められていなかった現実を提示する。その後、本実践の課題となる中心発問「オリンピックで女子ボクシングが競技種目にならないのはなぜか。」を投げかけ、生徒たちにその理由について考察させるのである。生徒はさまざまな立場からの意見を表出する。そこで、ボクシング競技の女性参加の是非について討論を行わせ、スポーツにおける競技性と平等性について考察させる。そして、女子ボクシングが正式種目として認められるために必要な条件やルールについて見出させるのである。それにより、全てを同じに考えるのではなく、競技性を損なわない程度に男女の特性に応じて違いをつけることの大切さを感じ取らせたい。

表-2 「スポーツと男女平等」授業の展開構想

学習の過程・内容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	教師の対応
1 導入 「オリンピックは、参加することに意義がある」	①クーベルタンの写真を掲示し、左に示した彼の言葉の意味を予想させる。	①クーベルタンの提唱した言葉の意味を予想する。	・彼の言葉の意味とともに、19世紀末の時代背景とオリンピック提唱の理念にふれる。
2 学習課題の提示	②北京オリンピックを目指す女子ボクサーの映像を流す。 ③北京オリンピックでは女子ボクシングが正式種目にならなかった事実を伝える。 ④「オリンピックで女性ボクシングが競技種目にならないのはなぜか。」(中心発問1)	②意外性を感じながらも、興味をもって映像を観る。 ③なぜ、ならなかったのか疑問に思う。 ④ア、女性では危険だから。 イ、女性の競技人口が少ないから。 ウ、男性の競技のイメージがあるから。 エ、殴りあうのは女性にはふさわしくないから。	・映像の北京オリンピックをめざすという文字に着目させ、当初是北京オリンピックの正式種目になる予定であったが、さまざまな理由ではずされたことを伝え、次の発問へつなげる。 ・まず、認められない理由を個人で考えさせ、その後小グループで意見を交換の場を設定する。 ・意見の妥当性にこだわらず自由に意見を述べさせる。
3 意見の類型化、問題の焦点化	⑤「彼女は、ボクシングを続けるべきか、続けるべきでないか。」	⑤ [続けるべき] ア、いつか叶うかもしれないので、夢はあきらめてはいけな イ、競技をしている人もいるので、オリンピックでも参加を認めるべきだから。 [続けるべきでない] ウ、野蛮であり、女性にはふさわしくないから。 エ、オリンピックに出場できないのなら続けても無駄だから。	・グループを解き、個人で意見をまとめる時間を確保する。 ・意見の表札を黒板にはらせ、個々の立場を明確にする。どちらか判断がつかない生徒は、黒板中央に意見の表札をはることも認める。 ・男女平等の視点を導き出すために、ウの意見に対しての賛否両方の意見を男女それぞれから表出させる。 ・プロボクシングの考え方が混在している意見が出た場合は、プロとアマチュアボクシングの違いをT2が説明する。
4 男女平等の理解	⑥「女子ボクシングを正式種目として認めるために必要なことは何か。」 ⑦「男女平等とは、どういうことか。」(中心発問2)	⑥ア、時間を短くする。 イ、防具を工夫する。 ⑦ア、男女を同じに扱うこと。 イ、お互いのよさを認めること。 ウ、場合によって男女で違いをつけること。	・ア、イのような女子と男子でルールに違いをつける。という意見が出たら、中心発問2につなげる。 ・アの意見には、何が同じなのかを問い、生徒の言葉の奥にある真意を表出させ、見取る。 ・男女平等とは、すべてのことを統一にすることでないことを、確認する。
5 本時の振り返り	⑧オリンピックの創始者クーベルタン自身が、女性参加を認めていなかった事実をT2が提示する。	⑧競技参加の意義を唱えていたクーベルタンが、実は女性参加を認めていなかった事実を知って驚く。	・オリンピックには、様々な側面があることを示すことで、次時の学習につなげる。

③ 授業の実際と考察

この授業では、ティーム・ティーチングという学習形態をとった。教師間の役割分担は表-3の通りである。この授業では、スポーツの世界における男女平等を取り扱ったが、教師自身も異性で組んだこともあり、それぞれの教師の役割分担がうまく機能した。

表-3 ティーム・ティーチングの分担体制

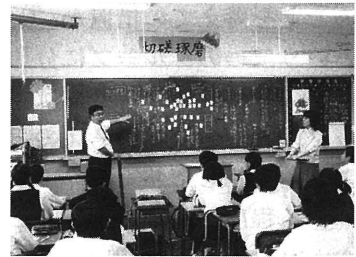
	教師1	教師2（実践者）
学級 (教科)	学級担任 (音楽科)	同学年の他のクラス担任 (保健体育科)
性別	女性	男性

また、中心発問における生徒の意見交換は活発に行われた。競技者である女性の立場でスポーツの平等性を訴える生徒、観客の立場で女性のボクシング観戦の是非を考える生徒、オリンピックを開催するIOCやボクシング協会の立場で女子ボクシングを開催種目として取り上げることの是非について意見を出す生徒など、さまざまな立場からの意見が出された。中学校1年生の段階で、多くの視点からのものの見方ができることが把握できたのは収穫であった。（資料1参照）

話し合いが白熱して時間が不足したこともあり、道徳のねらいである一般的な男女理解まではこの時間で到達できなかったが、この授業が「オリンピックと平等」「女性とオリンピック（スポーツ）」というテーマでの学習を展開する手応えは十分に感じる事ができた。

最後に、この授業に一つの仕掛けを行った。「スポーツを通じて平和と友好を唱えていたクーベルタン自身が、女性のオリンピック参加を認めていなかった」という事実を授業の終末で生徒に知らせたのである。その際、生徒から驚きの表情が見られた。生徒自身のスポーツに対する認識と事実の格差を見取ることができた。この揺さぶりは、オリンピック学習の導入として、価値のある授業へと改善できることを確認した。

写真2（授業の様子）



【資料1：授業後の生徒の感想より】

○私は、最初女子がボクシングがやるのを危ないし、認めない方に気持ちがいってました。でも「やりた
い人があるんだったらあった方がよい。」という発表を聞いて、私ももし女子ボクシングをやっていたら、
「何で男子は五輪に出れるのに自分は出れないの?」と思っているだろうなと思い、最後は認める気持ちに
なりました。男女間の差はほかにも今いろんな所でたくさんあると思います。（生徒A）

○授業の最後で、クーベルタンさんが「女の人がオリンピックに出ることを認めない。」と言ったのは、女
の人が闘っている所を見たくなかったからだと思います。フランスの人だから、女の人は常にきれい
であってほしいんだと思います。私もボクシングで顔とかにパンチが当たったら傷になったりするので、「認
めない」方でした。（生徒B）

○「男女平等の社会の中で、これは差別じゃないか」と疑問に思います。でもきつとオリンピックを開く主
権者側は何か考えがあるのだと思います。（生徒C）

2-2 体育科と社会科との教科関連をねらった授業実践

① 教材名 「オリンピックは誰のもの？（オリンピックと放映権）」

② 授業の展開構想

本実践は、北京オリンピックで開催された種目の中で、競泳と体操団体のみが午前中に決勝戦が行われた背景について、競技の特性や、運営上の問題に注目しながら考察することを通して、オリンピックには莫大な費用がかかり、メディアや企業の協力なしに運営できないことに気づくことをねらいとした。（表-4参照）

実践の導入では、前回のアテネオリンピックと北京オリンピックとの決勝戦の実施時間を提示（授業資料-1）し、競泳と体操団体のみが午前中に決勝戦が行われていることに注目させる。そして、そのような競技日程が組まれた背景を予想させる。生徒は、競技の特性に着目したり、観客の立場に着目したり、開催地の運営面に着目したりしながらさまざまな意見を表出する。そして、生徒の表出した意見を、選手のことを考えての措置か、大会運営のことを考えての措置かという二つのグループに分類し、討論活動を行わせる。もしここで、メディアの影響についての意見が出た場合には、オリンピックに直接かかわる選手や役員の考えと、オリンピックの外部の団体の考えのどちらを優先するのかというグループに分けて討論を行わせることも予想しておく。

ある程度討論が進んだところで、新たな視点を与えるために「誰がオリンピックを見たのか？」と教師が問いかけることで、現地の観客だけでなく、世界中にいる視聴者の存在に気づかせるのである。そして、競泳と体操団体が実施された時間が、ロンドンとニューヨークで何時であったか時差を計算させ、アメリカのプライムタイム（ゴールデンタイム）と一致することに気づかせる。

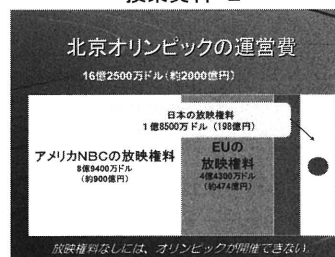
その上で、「なぜ、アメリカのテレビの都合に競技時間を合わせたのか？」を問う。ここで、アメリカのテレビ局（NBC）がオリンピック運営費の約半分に当たる放映権料を支払っていることを提示（授業資料-2）し、オリンピック運営に巨額の費用がかかること、そしてオリンピックが、競技者のコンディションよりも資金を提供するテレビ局の意向を無視できなくなっていることに気づかせるのである。

この時点で、生徒はなぜテレビ局がこれだけ巨額な資金を提供するのかという意図に気付いていないと思われる。そこで、テレビ局側の意図を視聴率とCM料による利益との関係に着目（授業資料-3）させ、オリンピックを利用しているという事実について理解させ、オリンピックに潜む問題点について考えることへのきっかけを作りたいと考える。

授業資料-1

種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
競泳男子 4×100m メドレー																					
体操団体 男子 地上競技 男子 100m ソフトボール																					
野球 女子 女子団体 男子 ソフトボール																					

授業資料-2



授業資料-3

NBCが支払った 放映権料	8億9400万ドル
番組制作費	1億ドル
合計	9億9400万ドル
NBCが得た CM料	10億2500万ドル
利益	33億円

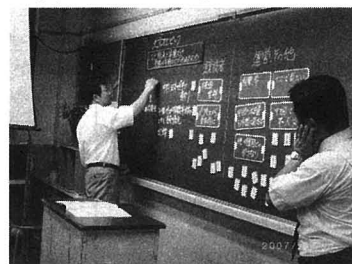
表-4 「オリンピックは誰のもの？」授業の展開構想

学習の課程・内容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	教師の対応
1 北京オリンピックの日程	①「オリンピック中継を見たのは何時ごろが多かったか。」	①柔道、陸上の決勝や野球の試合が行われた夜間や、水泳、体操の行われた午前という意見が出されるであろう。	・生徒の興味を喚起させるために、「一番盛り上がった競技は何か」と問い、アテネオリンピックと北京オリンピックで、それらの競技の実施時間を比較する。
2 競技実施時間設定の背景の検討	②「なぜ競泳と体操だけ、決勝が午前中に行われたのか。」(中心発問1)	②ア、選手の体調を考えて。 イ、個人種目と団体種目があるので種目の数が多いから。 ウ、種目の特性上午前中の方が好記録が出やすいから。 エ、他の種目と同じ施設を使うから。 オ、他の種目の決勝とテレビの放送時間が重ならないようにするため。	・必要に応じて、会場ごとの日程をまとめた資料を提示する。 ・バレーボールを例として取り上げ、競技時間に合わせたの体調管理が必要であったことを説明する。 ・競泳と体操は団体種目があるものの、基本的には一人ずつ競技する種目であるという共通点を説明する。 ・選手のことを考えての競技時間の設定なのか、それ以外の人々のことを考えての時間設定なのかを問いかける。
3 選手側と運営側の立場の違い	③「選手のことを考えての措置か、オリンピックの運営上のことを考えての措置か。」	③ [選手] ア、アテネでは2日間で行われた水泳が、午前中に決勝を実施することによって一つの種目が3日間にわたって行えることになり、選手には余裕が生まれたから。 [運営] イ、他の決勝と時間帯をずらすことによって、交通渋滞などを防げるのではないか。	・オリンピックに伴って北京市内で、さまざまな規制が行われたことを説明する。 ・交通規制、報道管制、テロ対策などオリンピックを運営する上での諸問題を、整理する。 ・オリンピックが、選手のことだけを考えて運営されているのではないことに注目させる。 ・テレビのゴールデンタイムに放送できる地域を特定させるために、競泳決勝の現地時間を計算させる。 ・ある程度討論が進んだら、「誰がオリンピックを観たのか」と問い、次の中心発問にうつる。
4 商業資本とオリンピックの関係	④「なぜアメリカのゴールデンタイムに合わせたのか。」(中心発問2)	④ア、たくさんの視聴者がいるから。 イ、アメリカの企業がたくさんスポンサーに付いているから。 ウ、アメリカのテレビ局が高額の放映料を支払っているから。	・約 2000 億円のオリンピック運営費の半分がアメリカのテレビ局からの放映権料で賄われており、また日欧のテレビ局からの放映権料も巨額にのぼることを説明する。
5 現代のオリンピックの特色	⑤「オリンピックは誰のものか。」	⑤スポーツの祭典として世界中の人々に提供されるものであるが、その背後には経済的な要因が絡んでいることをふまえて考えをまとめる。	・IOC 会長の言葉を紹介し、ロンドン以降、お金のかけ離れたコンパクトなオリンピックを目指していることを紹介する。

③ 授業の実際と考察

授業終了後にアンケートを実施した。その結果も踏まえて本実践を振り返りたい。今回の実践を夏季休業後に行い、北京オリンピックをほとんどの生徒が観戦していたため、導入はスムーズであった。ただ、皮肉にもテレビの放映権の関係で自分たちが生中継を観たのか、録画中継を観たのかを認識していない生徒が半数以上に上り、「午前中に決勝が行われた競技が競泳と体操団体であった事実」を把握するのに時間がかかった。

また、中心発問1に対する競技時間についての意見では、意外にも観客やメディアに関する意見が挙がってきた。中には、テレビ局の思惑までとらえた意見があり驚かされた(表-5の3-1:ゴシック部)。しかし、テレビの視聴率とテレビ局の得る利益との関係の理解についてはプレゼンにより視覚的に示してみたものの、中学校1年生にとってはやはり内容的に難しかったようである。



この授業を通して、生徒はこれまで知らなかったオリンピックの別の姿を垣間見た。自分たちが競技に没頭し、感動していたオリンピックが、実は経済的な関係なしには開催できないという現実を知ることができたのである。

また、二つの教科にまたがる教材としてオリンピックを位置づけ、体育科と社会科の違った教科の視点から教材を捉える力を身に付ける学習は、生徒にとっても魅力的に映ったようだ。このような力こそ、これからの社会で必要とされる活用力として、大いに身に付けさせなければならないことを痛感した。

ただ生徒は、これまで学習した学習内容の活用の自覚化までには到達していない。生徒が意図をもって授業で身に付けた力を他の学びに発展できるよう、身に付ける学習内容と活用させる学びとの整合性をしっかりとっていきたい。

表-5 授業後に行ったアンケート結果 (37名)

質問項目		アンケート結果
1-1	この授業は楽しかったか	①楽しかった (19名) ②どちらかという楽しかった (16名) ③どちらかという楽しなかった (1名) ④楽しくなかった (1名)
1-2	楽しかった理由(複数回答)	①オリンピックの裏側を知ることができたから (19名) ②パソコンをつかって情報がわかりやすく提示されたから (13名) ③社会の内容と、保健体育の内容の両方を活用することができたから (8名) ④二人の先生が授業をやったから (5名) ○その他：自分の興味をもった内容だったから (1名)
1-3	楽しくなかった理由(複数回答)	○内容がむずかしかったから (2名)
2-1	この授業で、小学校や中学校の体育で学んだ知識が生かされたと思うか	○思う (7名) 「水泳の授業でどの時間帯が泳ぎやすいか」「スポーツの大切さ」「体を動かす仕組み(エネルギーのこと)」「健康管理」 ○思わない (29名)
2-2	この授業で、小学校や中学校の社会で学んだ知識が生かされたと思うか	○思う (12名) 「外国の様子や歴史」「経済的な問題」「時差 (4名)」「地域調査」「北京の経済状況」 ○思わない (23名)
3-1	「なぜ競泳と体操だけ、決勝が午前中に行われたのか」という問いに対して、どのような意見を持ったか。	[競技者に着目] ・選手の体調にとっては、朝の方がよいと思った (7名) ・夜は眠たくなって危険そうだから ・競技が危険だから

		<p>[運営側に着目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合時間の延長があるものを午後にした <p>[観客に着目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながお昼によくテレビを観るから (2名) ・体操は中国の得意競技で、みんなが観るため (2名) ・アメリカと中国と他国との関係 ・アメリカの人に見られるように ・中国に人が競技場に来られるように ・中国では人気がないからゴールデンタイムでなく、昼に中継を終わらせる <p>[メディアに着目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が強いから、テレビを付けている午前中にあった。 ・強いチームや金持ちのチームの国の時間に合わせている。(2名) ・アメリカなどの大きな国から多くのお金をもらったから
3-2	その意見を導き出すのにどのような点に注目したか	<ul style="list-style-type: none"> ①競泳や体操の競技としての特色に注目した (18名) ②オリンピックを運営する人々が携わっている仕事の中身に注目した (7名) ③中国の社会に与える影響に注目した (5名) ③オリンピックの競技日程に注目した (5名) ○その他 (3名) ・視聴者に注目した ・国と国との関係に注目した
3-3	その意見を導き出すのにどのような考え方をういたか	<ul style="list-style-type: none"> ①枝の実施時間とコンディションとの関係を分析した (19名) ②オリンピックの運営に携わる人々の思いを想像した (8名) ③公正で平等な条件で競技を行うことを重視したのではないかと予想を立て (5名) ④オリンピックとそれを支える産業とを関連づけた (3名) ○その他 ・観戦する人の目線から想像した
4-1	教科で学んだ知識を活用するのに役立つと思うか	<ul style="list-style-type: none"> ○役立つ (17名) ○どちらかという役立つ (12名) ○どちらかという役立つ (6名)
4-2	教科で学んだ、目の付け所や考え方を活用するのに役立つと思うか	<ul style="list-style-type: none"> ○役立つ (18名) ○どちらかという役立つ (16名) ○どちらかという役立つ (2名)
5	このような授業は今後もあった方がよいか	<ul style="list-style-type: none"> ○あった方がよい (18名) ○どちらかというあった方がよい (16名) ○どちらかというない方がよい (1名)
6	その他、この授業に対する感想 (自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピックの日程がそんな風に決まっていたことは知らなかったの、裏側がわかって面白かった。(7名) ○オリンピックという1つの課題に対して、いろいろな意見が出たことが面白かった。(3名) ○体育と社会科の2つの授業が交ざり、オリンピックの事実が知れて面白かった。(3名) ○途中で終わってしまったので、残念だった。2時間でやればよかった。(2名) ○オリンピックは単に選手が競技をするだけの簡単なことだけではなく、経済(お金)の問題など有り、難しいなと思った。 ○競技者側だけではなく、運営者側からの視点で見ることができた。 ○オリンピックは、世界中が観る素晴らしい行事です。でもお金でほとんど変わってしまっているのびっくりした。 ○何事も結構最終的には社会的な関係があるなと思った。 ○家族で疑問に思ったことが授業であって、この授業を聞いて、そのことがよく分かりました。この授業が終わった後にそのことを家族にいうと「なるほど…」とちょっと得した気になりました。 ○アメリカのゴールデンタイムに当たっていたことには驚かされた。オリンピックの開催国は、いろいろなことを考えながらオリンピックをしないといけないことが分かった。

3. 今後の課題

3-1 「体育理論」の内容としてのオリンピック学習

新学習指導要領の体育理論第3学年には、以下のような学習内容の明示がある。²⁾

- (1) 文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。
 - ア スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であること。
 - イ オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。
 - ウ スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

ここに掲げられた内容を今後生徒に理解させるにあたって、スポーツのもつ役割や素晴らしさを語ることのみでは、スポーツのもつ一面を捉えているにすぎない。スポーツという一つのイベントの舞台裏にも着目し、情報を批判的に読み解きながら、必要な情報を取り込み、全体像を捉える力、できるだけ多くの側面からスポーツを捉えていく力を生徒に付けていくことが必要となる。よって、今後「体育理論」の学習を仕組んでいく際には、これまで起こった、そして未だ現存する諸問題についての理解なしには、上記の本当の意味での理解は不可能である。新しい学習指導要領下では、体育理論の各学年3単位時間以上の授業構成が位置づけられている。「オリンピックを諸問題もふまえて、オリンピックの価値を語る。」そのための内容構成を今後の課題の一つとしたい。

3-2 他教科等の内容としてのオリンピック学習

今回の二つの実践を通して、オリンピックが、単にスポーツとしての側面でなく、政治や経済、人権の問題にまで深く関わっていることを再確認できた。同時に、本教科も含めた多くの教科の学習が、生徒の探究的な活動に上手く機能していく可能性を秘めた素材であることを再認識した。

よって、今後道徳の授業の資料としてオリンピックを用い、オリンピックに関する内容理解と男女平等やその他の人権、フェアプレーといった道徳的価値との関連づけ、双方の学習効果の高い授業を提案していきたい。

また、教科で学んだ知識の活用や探究型の目指し、自分の生き方へとつないでいける「総合的な学習の時間」にもオリンピック学習を設定し、教科とまたがる幅広い学びとして捉えさせていきたい。

現在、オリンピックに関するもう一つの実践、「オリンピックの諸問題の是非を問う」というテーマで1年生の総合的な学習の時間で取り組んでいる。現在歩み出したばかりであり、この実践の成果が出るまでに時間がかかるが、上記の課題を踏まえしっかりと検証していきたい（参考資料として、次項に単元構成を掲載する）。

写真3（授業の様子）



引用文献

- 1) 高橋幸平 『『体育理論』でオリンピックをこう教える』体育科教育 大修館書店 2008年8月号
- 2) 学習指導要領保健体育科 文部科学省 平成20年3月

参考文献

- 真田 久 「学校体育でオリンピックを教える意味と価値」体育科教育 大修館書店 2008年8月号
- 榊本直文 「いま求められる『オリンピック・リテラシー』」体育科教育 大修館書店 2008年8月号
- 石田良恵著 「女性とスポーツ環境」 モダン出版 2005
- 井谷恵子・田原淳子・來田享子編著, 「目で見える女性スポーツ白書」大修館書店 2001
- 広畑成志編, 「アテネからアテネへーオリンピックの軌跡ー」 本の泉社 2004
- 増島みどり著, 「オリンピック、108年目の夏」角川書店 2006
- 武田 薫著, 「オリンピック全大会人と時代と夢の物語」朝日新聞社 2008
- ジム・パリー, ヴァンシル・ギルギノフ著, 「オリンピックのすべてー古代の理想から現代の諸問題までー」大修館書店 2008

【参考資料：第1学年総合的な学習の時間の学習計画】

(1) 単元名 「オリンピックにおける諸問題の是非を問う」

(2) 単元構成の意図

オリンピックが抱える諸問題から追究する課題を見出し、課題の調査・検討を行い、その解決策をまとめる活動を通して、オリンピックのもつ魅力と諸問題について理解するとともに、生徒自身をとりまくさまざまな事象を多角的にとらえる力を養い、自己の生き方について考えることをねらいとする。

まず課題を見出す場を設定する。ここでは、オリンピックに関する生徒の認識を覆すような事例に出会わせ、学習意欲を喚起するとともに、その中でオリンピックが対峙するさまざまな諸問題に気づかせるのである。

次に課題を追究する場を設定する。ここでは、「オリンピックが抱えている諸問題」について、三つの立場からの是非をその根拠とともに表出させる。そのため、オリンピックにおける課題を挙げさせ、その課題を「フェアプレー」「身体」「環境」「政治」「経済」「人権」の六つのカテゴリー毎に分類する。そして、自分の課題と共通する者同士でグループを編成し、グループ課題を設定させる。その後、三つの立場から見た諸問題についての見解を仮説として述べさせる。そして、グループ内で仮説の設定をしたり、追究方法について検討したり、実際の調査の場で役割を分担したり、その成果を比較・検討し合ったりするという生徒同士のかかわり合いを通して、多くの価値観や視点にふれ、より質の高い学習成果を期待したい。

さらに追究成果を表現する場を設定する。ここでは、これまで調べて明らかになった成果を追究の課程とともにポスターセッションの形で発表させるのである。発表は、まず同一カテゴリー内での中間発表会を行う。この中間発表会に対しての意見交換をカテゴリー内

で行うことにより、最終発表会に向けての修正を学習内容と学習方法の両面から行うのである。そして最終発表会では、全てのカテゴリーが集ったグループを新たな編成する。異なるカテゴリーの生徒の発表を聞くことにより、中間発表会より幅広い学習内容を獲得するとともに、さらに多様な追究方法を知ることができ、今後さまざまな課題を追究する新たな視点をもたせるためである。

最後に、オリンピックに関係するさまざまな人の立場や心情に着目したり、オリンピックの諸問題を把握したり、その時代背景から現代のつながりをもたせたりすることで、自分とオリンピックとの関係が身近な問題であることを再認識し、自分なりのかかわり方を見出すことを期待したい。

表-6 単元構成表及び単元の流れ

次	学習内容・活動	主 題	指導上の留意点
1	オリエンテーション	・オリンピックにおける諸問題をいくつか取り上げ、観戦する具体例について考えることを通して、オリンピックの多面的な観戦の仕方を理解することができる。	
2	オリンピックが抱える諸問題との出会い	・「オリンピックの諸問題を探る」という共通課題について整理する活動を通して、自分の追究したい課題をとらえることができる。	・以前の総合的な学習の時間で行った分類の手法を用い、できるだけ生徒の力で課題を見つけさせる。
3	グループ編成 グループ課題設定	・同じ課題をもつ仲間でグループを編成し、話し合い活動を通して、グループの課題を設定することができる。	・「フェアプレー」「身体」「環境」「政治」「経済」「人権」の六つのカテゴリー別に分類する。
4	仮説の設定 追究方法の検討	・仮説を設定し、その後の追究方法を検討する学習を通して、調査研究の方法を学ぶと共に今後の学習の見通しをもつことができる。	・仮説設定については、観戦者である自分自身の他に、二つの別の立場の人から見た諸課題についての是非を問わせる。
5	追究活動 調査活動	・各グループで計画した役割分担で、追究・調査活動を行うことを通してグループなりの一定の結論を導き出すことができる。	・調査活動は、主としてインターネットや文献による調査とするが、場合によってはアンケートという形式も認める。また、調査活動の有効性についても教師のカウンセリングを適宜行う。
6	中間発表準備	・調査活動で獲得した内容を整理することを通して、ポスターセッションによる発表の準備を行うことができる。	・ポスターセッションについては、大判用紙を利用させる。美術科の学びを活用し、視聴者に見やすいポスターを作成させる。
7	中間発表会 (ポスターセッション)	・調査内容を発表したり、発表を聞き、質問や意見交換をしたりする活動を通して、表現内容、表現方法両面の理解を深めることができる。	・各会場に担当教師を充て、それぞれの発表についての評価活動を行う。
8	発表会の振り返り I 発表内容の見直し	・発表会の振り返りを通して、自己の思考の偏りや整合性などを検討し、内容面の見直しを図ることができる。	・他の発表を通して、内容面のみではなく発表方法についても見直しを行わせる。
9	最終発表会	・他のカテゴリーの発表を聞く活動を通して、自分の追究方法の確かさや他の追究方法のよさに気づくことができる。	・学習内容の定着のため、六つのカテゴリーを解いて、全てのカテゴリーが含まれるようグループ編成を行う。
10	振り返り	・これまでの学習を振り返る活動を通して、学びの成果や自己の変容に気づくとともに、今回の学習をこれからの生活に生かすことができる。	・これまでの学習を振り返らせるために、使用したワークシートや資料等の整理をさせる。